

第1号議案

平成23年度事業報告

概 要

一昨年、神奈川県支部発足30周年記念事業として開催した、「ジョイスティック車完成試乗会」を終えた後の、平成23年度の支部活動は、支部会報「やわらぎ」の発行事業を除いて、ほぼ順調に推移しました。

支部会報の発行事業の計画では、年間3回発行する計画となっていますが、ここの所、担当役員の不在が続き、残念ながら計画倒れになってしまったことは深く反省する必要があります。支部の会報は、脊損ニュースとともに地域で生活している会員の皆様の身近な情報を提供していくという意味でも重要な役割であると言えます。新任の担当役員を選任することも急ぐ必要があり、改めて会員の皆様にもご協力をお願いし対応して行きます。

ピアサポート活動に必要な知識や技術、相談を受けるピアマネジャーの資質の向上を目指し、毎年関東ブロックの各支部持ち回りでピアマネジャー現認研修会を開催しておりますが、平成23年度は関東各支部の協力で神奈川県支部が主催しました。

現在全脊連は、社団法人となっておりますが、平成20年11月に公益法人制度改革が行われたことにより、社団法人全脊連は平成25年11月までに公益法人に移行するか、また、一般社団法人または任意団体になるのかという選択肢を迫られました。

全脊連は、これまで3年間をかけて全国大会などの場で再三議論を尽くしてきた結果、一部支部と本部のみが公益法人に移行するという決議が行われましたが、経理的能力が備わっていないことや、公益事業の実施という厳しい関門あるため全支部がともに公益法人へ移行することにはなれなかったという結論に達しました。

神奈川県支部も公益法人になるため会計報告などの書類を本部に提出したものの、結局公益法人への移行は無理という結果になりました。全脊連では今後3年間をかけて全国各支部の公益移行を促進していく方針にしています。

いずれにしても、本部が今後公益移行認定を申請することにより、公益化後の全脊連は代議員制度になることから全国の各支部とともに神奈川県支部も代議員を選出しなければなりません。

現在の全脊連は、全国の各支部長が会員の代表であり、全脊連の社員ですが、公益化後の全脊連はこの代議員が会員の代表となり全脊連の社員となり、総会の場で議決権の行使を行い、役員の選任や解任することができるなどの役割になります。神奈川県支部は、本年その会員数に応じて4名の代議員を選任することになります。

1、脊髄損傷者のピアマネジャー現認研修会の開催 平成23年度(社)日本損害保険協会助成事業

開催日 平成24年2月11日(土)

会 場 伊勢原市「フォーラム246」

主 催 (社)全国脊髄損傷者連合会 関東ブロック会

主 管 (社)全国脊髄損傷者連合会神奈川県支部

参加者 32名

—主なプログラム—

講 演 1 「全脊連のピアサポート活動の実施状況」

(社)全国脊髄損傷者連合会理事長 妻 屋 明

講 演 2 「厚生労働省指定相談支援専門員の要件について」

(社)全国脊髄損傷者連合会副理事長 大 濱 眞

講 演 3 「関東で大規模災害が発生した場合……」

—中越地震・東日本大震災の経験から—

社会福祉法人 りとるらいふ理事長 片 桐 公 彦

演 習 「ケースに対する支援計画と記録のとり方」

(社)全国脊髄損傷者連合会専務理事 赤城 喜久代

全脊連では、(社)日本損害保険協会助成事業として、ピアマネジャーやピアサポート活動の経験を持っている各支部役員が、病院やリハビリ施設などに入院している脊髄損傷患者や、また在宅の脊髄損傷者とそのご家族等に対して、精神的な支援と社会生活に必要な情報提供などのピアサポート事業を実施して、脊髄損傷患者等を支援する活動に取り組んでおります。

その一環として、関東ブロックではピアサポート活動の充実と相談支援従事者の資質の向上を目指すために、関東各支部から32名が参加して「関東ブロックピアマネジャー研修会」を開催致しました。

研修会には、「関東で」大震災が発生した場合」と題して、災害ボランティアの集団をどのような統括して組織的に障害者等の災害被災者支援を実施することができるか、など社会福祉法人「りとるらいふ」の片桐公彦理事長の講演が行われました。

全脊連の大濱眞副理事長が行った「国の相談支援専門員の要件について」の講演では、この4月から自立支援法が改正され、介護給付費の支給決定プロセスが見直されることになった。介護給付費等の支給決定の前にサービス利用計画案を作成して、支給決定の参考とするよう見直されました。

このサービス利用計画の作成を担う、「指定特定相談支援事業者」は各市

町村が指定することになり、障害当事者も一定の経験があると認められることより、県や市が実施している障害者相談支援従事者初任者研修が受講することができ、同時に「指定特定相談支援事業者」にもなることができる。などの内容のある講演でした。

この後、研修会は全脊連の赤城専務理事の担当で実際に相談のあったケースについて参加者が支援計画を立て、記録するという演習を2例行うなど熱気に満ちた研修会となりました。

(1) その他、平成23年度ピアサポート活動

主に電話による相談が5件あり、それぞれ適切な対応を行いました。

2、東日本大震災支援金を拠出

昨年3月11日に発生した、東日本大震災により青森、岩手、宮城、福島、茨城の各県の沿岸部を中心に大災害をもたらしました。

特に巨大地震、大津波に加えて原子力発電所の重大事故という三重苦に見舞われ、その被害は史上空前の死者、行方不明者を合わせて2万6千人以上と発表されました。被災された会員の方々には、今後長い期間にわたり極めて厳しい生活が予想され、私たちは被災された会友の無事を祈り、この難局を共有して仲間の力を結集して応援しようとの呼びかけに応じて、神奈川県支部では10万円の支援金を全脊連本部に送金しました。

3、平成23年度支部総会の開催

開催日 平成23年6月19日(日)

場 所 フォーラム246会議室

併 催 1、スポーツ吹き矢大会

2、懇親会

支部定例総会	出席者	14名
	委任状提出者	45名
	合 計	59名

「資格審査」

平成23年度4月1日現在の支部会員数は112名であり、会則第10条2項による総会成立の定足数は57名以上となり、今総会は成立しました。

(総会議事)

総会は、はじめに川崎協会の田辺昌美さんを議長に選任して議案の審議へと進みました。

第1号議案の平成22年度事業報告が妻屋事務局長から行われ、今年は神奈川県支部が発足して33年目を迎えて、これまでの活動を振り返り全脊連の活動で成し遂げた、バリアフリー社会や福祉制度が今でも私たちの生活の実になり、糧となっていることを強調したうえで、全脊連の公益法人移行の必要

性と今後の障害者団体の役割を果たすことが重要と報告しました。

また、支部発足30周年記念事業である「ジョイスティック車試乗体験会」の開催、セミナー「あなたの食生活を診断します」の開催、「神奈川県総合リハビリセンター再整備に関する県の病院事業課との話し合い」などの支部活動が報告されました。

第2号議案は、町田財政部長から平成22年度決算報告が行われ、記念事業の開催などにより収入より支出が15万9千余り多くなり、記念大会積立金を取り崩す形となったことに注意すべきとの報告が行われました。

この後、路川みどり会計監査から監査報告が行われ、採決の結果全会一致で了承されました。

第3号議案の平成23年度支部活動方針及び事業計画、と第4号議案である総額183万5千740円の平成23年度予算案について審議した結果、支部提案通り全会一致で了承されました。

今総会では、任期満了に伴う平成23年度支部役員改選が行われました。

その結果、山崎 昇支部長を先頭に引き続き現状維持の役員体制の提案が了承されました。また、湘南協会と西湘協会が合併し、協会長は宝子山正博さんに決まりました。そのほか、副支部長の路川十九夫さんは、全脊連関東甲信ブロック会長に就任し兼務することになりました。

(1)「スポーツ吹き矢大会」の開催

支部総会の後に開催されました、スポーツ吹き矢大会はご家族も参加して和やかな雰囲気の中で約2時間程度をかけて競技が行われ、参加者14名がそれぞれが豪華賞品を目指しました。スポーツ吹き矢は、手に重い障害があっても誰にでも気軽にできる数少ないスポーツですが、もっと大きく広がり普及することを願っています。

(2)「懇親会」の開催

神奈川県支部では、創設以来会員相互の親睦を第一にして支部の運営に取り組んできましたが、支部総会の後の懇親会では福祉制度などの難しい話は後におき、仲間と仲間の付き合いを中心に美味しいものをいただき、歓談する場としています。この日もそれぞれが心置きなくゆったりした時間を過ごしました。

4、定例役員会の開催

会員の皆様から選ばれた、支部長をはじめ各役員が支部を代表して支部を運営していくうえで、定期的な役員会の開催は欠かすことのできない最も重要な会議の一つに位置付けられています。

現在、支部では会員の皆様の意見や声を聞きながら、また、各役員の合議により2か月に1回の割合で開催しております。

平成23年度も下記の通り6回開催しました。

役員会	開催日	開催会場
第205回	平成23年 4月24日	相模原市「けやき会館」
第206回	平成23年 6月19日	伊勢原市「フォーラム246」
第207回	平成23年 9月 3日	神奈川リハ更生ライトホーム
第208回	平成23年10月16日	相模原市「けやき会館」
第209回	平成23年12月18日	伊勢原市「フォーラム246」
第210回	平成24年 2月 5日	相模原市「けやき会館」

5、支部会報「やわらぎ」の発行

報告の概要でも、提示しましたように昨年度の「やわらぎ」の発行は、第86号の支部総会議案書と第87号の2回となり支部役員として反省し、今後は会員の皆様のご期待に応えて努力して行く必要があります。

第87号では、指1本でらくらく運転のジョイスティック車の試乗会をはじめ健康セミナー「あなたの食生活を診断します」など主に支部活動の内容が中心になりました。

❖やわらぎ第86号(総会議案書)…………… 平成23年 6月 5日発行

❖やわらぎ第87号……………平成23年12月23日発行

6、支部忘年会の開催

昨年度は、東日本大震災など辛い話題が満ちていたように思いますが、支部では何時ものように1年間の締めとして忘年会を開催しました。

今回は、次の年の活力になるようにビンゴゲームに豪華賞品を準備して参加をご案内しました。

開催日 12月18日(日)

会場 「フォーラム246」

参加者 25名

7、共同募金活動への参加

神奈川県支部活動の中の共同募金活動は、「要望活動を行っている障害者団体であっても、只それだけではなく、積極的に社会に参加して、社会に役立つ活動を行うことが重要」という考えから、毎年駅前等で募金活動参加しています。

昨年度の募金活動は、下記の通り参加し募金活動を行いました。

尚、10月1日の横浜駅前での募金活動は、関東ブロック会議と重なり欠席。

10月3日…………… 相模原市役所前…………… 赤城副支部長他

10月6日…………… 厚木駅前にて……………路川、山崎敏夫他数名

8、第10回全国総会熊本県大会出席

本部の社団法人全国脊髄損傷者連合会の第10回全国総会熊本県大会は、6月2日から4日までの3日間の日程で熊本全日空ホテルニュースカイにおいて全国から30支部が出席して開催されました。支部からは、山崎支部長と路川副支部長の2名が出席しました。

今回の全国大会では、講師に内閣府障害者制度改革推進会議担当室の東 俊裕室長をお招きして、「障害者制度改革推進会議の最新動向」と題して権利条約批准に向けて障害者基本法改正・総合福祉法・差別禁止法について特別講演が行われました。

また、総会議事では全脊連の今後の活動方針や団体としての社会的役割などに深く関係する公益法人への移行について「定款変更に関する決議」という重要な決定が行われました。以下は、その決議内容です。

〔趣 旨〕

2008年12月の公益法人制度改革により、特例民法法人全国脊髄損傷者連合会は、不特定多数の者の利益の増進に寄与する、公益目的事業を行うことを主たる目的として、第10回全国総会熊本県大会において別刷の公益法人移行申請のための定款変更案を全支部一体の基で決議し、2013年11月までに公益法人全国脊髄損傷者連合会の認定を受けることを目指す。

〔主な変更点〕

「目的」を公益目的事業を推進することにより、重い障害のある人でも尊厳をもって主体的に暮らすことができる社会の実現に寄与すること。

「社員」は、会員数に応じた「代議員選挙」の導入を図ること。

組織力の強化を図るため、会員区分に「支援会員」を導入することにより、本部・支部に専門性をもつ協力者を組織化することにより「全脊連」の活力を回復させること等である。

また、新定款の施行は、公益認定による移行登記完了日となります。

〔付帯決議〕

公益等認定委員会の意見・指摘、厚生労働省の指導等の意見、細部の修正等は理事長に一任することとし、重要な事項の変更については、臨時の社員総会において変更についての「議決」を求めることとする。

【熊本総会に出席した山崎支部長の感想】

今回の大会では、公益法人移行についての審議が総会前に開かれた代表者会議でも論議されましたが最終的には、賛成多数で平成25年に向けて公益化を目指し活動することになりました。

私は、全脊連の初代会長から現在の理事長まで一会員として活動して参り

ましたが、現在の国に対する要望について各省庁と話し合えるようになったのも、今までの活動のお蔭だと思います。公益化をやめて元の活動に戻るのか。それはできないでしょう。それなら素直に賛成し、公益法人化に向け各支部が協力するのが当然ではないかと思いました。議事の最後に、本部役員は命を懸けて全脊連をより良い団体にするために活動している。ということを一こと言いたくて発言しました。毎年あれだけの要望をお願いするのに、なぜ協力しない支部があるのか残念でした。

9、23年度第1回臨時総会に賛成の委任状を提出

熊本県大会の決議を受け、全国各支部から提出された決算報告書及び予算書を計理士や行政書士など専門家で構成された「CILふちゅう公益法人移行認定チーム」に精査を依頼しましたが、全支部一体のもとで公益認定を受けることは大変厳しいとの評価を受けました。

そこで、平成23年10月10日に開催しました全脊連の拡大理事会において、「①本部と一部支部での移行申請をする」「②本部単体で移行申請する」「③一般社団法人として申請する」という3つの選択肢について慎重に検討を行いました。採決の結果、拡大理事会は「本部と一部支部での移行申請をする」という選択肢が多数を占めるに至り、定款第21条第2項により臨時総会を開催し、「本部と一部支部での移行申請をする」という議案を提出し、その方向性を確定することになりました。

神奈川県支部では、この臨時総会に賛成の委任状を提出しました。採決の結果、「本部と一部支部での公益法人移行申請をする」という議案に賛成25支部反対8支部で本部提案通り可決し、現在申請手続きのための作業が進められています。

10、関東ブロック会議長野県大会に出席

23年度の関東ブロック会議は、長野県支部が主催して10月1日から2日まで2日間の日程で長野市松代ロイヤルホテルにおいて開催され、関東各支部から40名が出席しました。

神奈川県支部からは、山崎支部長はじめ路川、赤城両副支部長、妻屋事務局長の4名が出席しました。

この大会で、毎年各支部で開催しているピアマネジャー現認研修会を神奈川県支部で開催することを決めたほか、各支部が公益法人へ移行することで「指定特定相談支援事業者」になり公益事業を行うことができる、などの情報交換や障害者雇用問題などの要望事項が報告され他、次年度のブロック会議を東京支部で開催することを決め大会を終了しました。

また、今大会ではホテルの駐車場において、ニッシン自動車工業株式会の3名の職員による、無料点検サービスが行われました。

11、協会活動

23年度も各協会の活動は活発に行われ、会員の皆様にそれぞれご案内し参加者を募りました。

[1]川崎協会

1、生活習慣病予防研修会の開催

『脊髄損傷者の内科的諸問題について』～自分のからだを見つめよう～

開催日 11月27日(日)

会場 川崎市国際交流センター2階会議室

講師 神奈川リハビリテーション病院副院長 水口正人先生

参加者 42名

身体活動の低下余儀なくされている脊髄損傷者が、生活習慣病等の合併症を起こすことのないよう、その対応知識と情報を得る機会とする目的で「脊髄損傷者の内科的諸問題」と題して開催しました。

セミナー後に行われた懇親会には25名が参加しました。

[2]横浜協会

1、横浜港クルージングと中華街で食事会の開催

山下公園乗船場から遊覧船マリノージュで横浜港を約1時間をかけて一周。海の香りを胸いっぱい吸い込み、秋の午後をのんびり過ごす横浜港クルージングを楽しんだ後は、中華街をぶらーり散策。夕食も仲間の皆様とご一緒に萬珍樓本店で中華を囲む。おなじみの企画です。

開催日 10月14日(金)

会場 萬珍樓本店

参加者 クルージング22名・食事会29名

[3]県央協会

1、ボーリング大会の開催

昨年は大変な年となりました。東日本大震災の被災者を気遣いつつ、元氣を取り戻すことも含め県央協会主催のボーリング大会を開催しました。

上肢に障害がある人のための補助具、通称「象さん」も利用して、ゲームを楽しみました。

開催日 12月18日(日)

会場 神奈川レジャーランド厚木店

参加者 27名

ゲームの結果は、チーム1が、1位 田中 将さん。チーム2が、1位田辺さんの介護者。象さんチームは、1位路川みどりさんでした。

12、その他の活動

1、山崎支部長は、4月21日・11月23日に開催された神奈川県障害者施策

推進協議会に委員として出席しました。

11月23日の施策推進協議会では次のようテーマが審議されました。

- 1、第3期障害者福祉計画の施策に関する国の基本方針案等の内容と、県の改定計画の主な方向性。
- 2、神奈川県障害者福祉計画策定のイメージ
- 3、かながわ障害者地域生活支援推進プログラム大綱に関する実施状況について中間とりまとめ
- 4、障害福祉サービスの利用動向について
- 5、かながわ障害者福祉計画に係る平成23年度の取り組み状況
- 6、平成23年度生活のしづらさなどに関する実態調査

この会議で、山崎支部長は障害者交流センターやスポーツ施設の充実について、その必要性に関する意見を述べました。

- 2、路川副支部長は、9月6日、3月13日、3月18日に開催された神奈川県社会参加促進センター推進協議会委員会にそれぞれ出席したほか、7月31日に神奈川リハセンターのプールで行われた障害者スポーツ、9月10日の県スポーツ大会でスポーツ吹き矢講習会に山崎支部長と出場、9月25日に平塚で行われた歩行訓練、10月20日に行われた、国民体育大会山口県大会の結団式、藤沢で行われた障害者スポーツフェスティバルにそれぞれ出席しました。

また、路川副支部長は平成24年度も引き続き、神奈川県社会参加促進センター推進協議会委員に就任することに決まりました。

以上